

鉄の3兄弟 北秋田市民・団体限定

車両貸切料金半額セール!!

問 秋田内陸縦貫鉄道株式会社
☎82-3231 (平日9時~17時)

北秋田市民・団体限定で今なら「鉄の3兄弟」を車両料金半額で貸切ることができます。

地域の集まりや同窓会、研修会、イベントなどさまざまな使い方が可能ですので、この機会に自分たちだけの贅沢な空間をお楽しみください!



片道 通常 50,000円 → 半額セールで... **25,000円**

往復 通常 70,000円 → 半額セールで... **35,000円**

※予算が無くなり次第、予告なく終了しますので予めご了承ください。

長男

秋田マタギ号
定員 43名
マタギの古民家をイメージ
トイレ、カラオケを装備

次男

笑 EMI
定員 42名
窓側を向いているEMIシート

三男

秋田縄文号
定員 53名
縄文文化をイメージした内装



▲矢川プラスの写真



▲矢川プラス
ホームページ

「くにたち未来共創拠点 矢川プラス」は令和5年4月、JR矢川駅から徒歩4分ほどの場所にオープンした「まちなかのおおきな家と庭」がコンセプトの複合公共施設です。

子どもたちが集まる児童館やこすきひろば、大型の鏡や楽器などが揃えられ音楽やダンスの練習に利用できるスタジオ、電気ポットや電子レンジを備えた自由に利用できるミニキッチン、電源を備えた自習スペースであるスタディコーナー、誰もがくつろげる吹き抜けが開放的なみんなのホールなど、さまざまな機能をひとつの建物に備えています。

子どもから高齢者まで、誰もが気軽にふらりと立ち寄れる矢川プラス。多世代・多様な人々がつどい、つながり、まちの元気と未来をつくり続けていく。そんな場所になれるよう、さまざまな仕組みづくりに取り組んでいきます。

友好交流都市連携事業

くにたち未来共創拠点 矢川プラス

vol.10 国立市のさまざまな魅力を定期的に紹介します。

6月は環境月間

日本では6月5日の「環境の日」を含む6月の1か月間を「環境月間」として定めています。

世界は地球温暖化や森林破壊など多くの環境問題を抱えており、私たちの身近なところではごみの不法投棄や処理に関する問題、減量や資源化に向けた課題が多く存在しています。

まずは生活に身近な問題から積極的に考え、ご自身でできる取り組みを探していきましょう。



▲市内に不法投棄されていたごみ(令和4年9月)
不法投棄は環境犯罪です。絶対にやめましょう。

市内の家庭系ごみの量～排出量の推移～

人口減少によって年々ごみの排出量は減っているものの、1人1日あたりのごみ排出量は増加傾向にあることから「ごみの減量意識」を高めていく必要があります。

	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
市の人口	31,235人	30,565人	29,847人	29,036人
家庭系ごみ排出量	7,894,000kg (7,894t)	7,652,000kg (7,652t)	7,501,000kg (7,501t)	7,479,000kg (7,479t)
1人1日あたりごみ排出量(g/人/日)	691g	686g	689g	706g

▲令和4年度 7,479,000,000g ÷ 29,036人 ÷ 365日 = 706g

回収した資源ごみ～ペットボトルの売却～

資源化の一例として、市が回収したペットボトルは「日本容器包装リサイクル協会」へ引き渡し、必要とする業者に売却され、市に還元されます。

	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
引き渡した量	68.98t	78.37t	75.67t	75.51t
市に還元された額	316万3千円	212万2千円	210万8千円	642万6千円
1tあたりの単価	45,853円	27,076円	27,857円	85,101円

※令和4年度はペットボトルの原料である石油が高騰しました。そのため、ペットボトルをリサイクルして製品化した方がコストが安く済むことから需要が高まり、高い価格で売却されました。

私たちにできること～地球の環境を守るために～

3Rに取り組む

- 【リデュース】**
・無駄なごみの量を減らしましょう。
- 【リユース】**
・一度使ったものをゴミにしないで何度も使しましょう。
- 【リサイクル】**
・使い終わったものを資源に戻しましょう。

食品ロスに取り組む

- ・すぐに食べるときは「てまえどり」を意識しましょう。
- ・生ごみの80%は水分のため、水切りをしっかり行いましょう。
- ・家庭での食品の食べきり、使いきりを心掛けましょう。

資源ごみの分別に取り組む

資源化ができるにも関わらず、可燃ごみとして捨てられているごみの分別を徹底しましょう。



豊かな自然を守り、次世代に引き継ぐことができるよう、環境保全について考えてみましょう!